

令和6年度

事業報告書

自：令和 6年 4月 1日
至：令和 7年 3月 31日

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団

目 次

I	事業概要	1
II	事業の実施状況	1
1	助成事業（公1事業）	1
(1)	研究助成事業	1
(2)	シンポジウム開催等助成事業	2
(3)	奨学助成事業	2
2	情報提供事業（公3事業）	2
(1)	ホームページによる情報提供	2
(2)	研究成果報告書の発刊	2
3	調査研究事業（公2事業）	3
(1)	受託事業	3
III	管理運営業務	3
1	会議の開催	3
2	令和6年度主要業務	3
IV	組 織	3
V	附属明細書	3
(資料)		
別紙1	平成6年度（第31回）研究助成金交付対象者	4
別紙2	令和7年度（第32回）研究助成金交付対象者	5
別紙3	平成6年度シンポジウム開催等助成金交付対象者	6
別紙4	令和7年度シンポジウム開催等助成金交付対象者	7
別紙5	日本食品化学研究振興財団ホームページ 主なコンテンツ	8
別紙6	令和6年度主要事業記録	9
別紙7	組織	10

令和 6 年度 事業報告書

I 事業概要

- ・令和 6 年度の助成事業については、令和 5 年度に引き続き食品化学に関する研究・シンポジウム開催等に対する助成事業を実施した。令和 6 年度の奨学助成事業については、募集期間内に申請がなく実施しなかった。
- ・情報提供事業については、食品添加物や残留農薬等食品化学に関する主に規制情報の収集とホームページ上での提供を令和 5 年度に引き続き実施した。
- ・令和 6 年度の調査研究事業については、令和 5 年度同様、調査の受託はなかった。
- ・財団本部（大阪）のインターネット、メール等情報ネットワークシステムを所在施設のシステムから独立させ、再構築した。
- ・令和 6 年度においても、理事会等でウェブ会議システムの活用、開会準備の暇がない事項等に関しては理事会決議のみなし規定の活用等により事業の効率化を図った。

II 事業の実施状況

1 助成事業（公 1 事業）

（1）研究助成事業

1）令和 6 年度研究助成

- ・令和 6 年 3 月に開催された選考委員会において選考し、同月開催の理事会にて決定した助成金交付対象 15 件（16 件決定後 1 件辞退）に対して、同年 5 月、研究助成金（総額 1420 万円）を交付した。

（交付対象者及び助成額は「別紙 1」のとおり）

2）令和 7 年度研究助成選考

①募集公告

- ・令和 6 年 9 月、本財団の助成対象の研究分野に関連のある学会誌（日本栄養・食糧学会誌等 6 誌）及び関係学会（日本食品化学学会等 10 学会）のホームページに当該募集公告の掲載を依頼するとともに、令和 6 年 10 月に財団ホームページにおいて募集公告を掲載し、助成対象者の公募を行った。

②研究課題

- ・令和 6 年度に引き続き、一般研究と課題研究（予め本財団が研究分野を定め、その分野内で申請者が課題を定めて行う研究）に分けて助成申請の募集を行った。

③申請受付

- ・令和 6 年 11 月 15 日から令和 7 年 1 月 15 日の 2 か月間、助成申請を募集し、61 件（一般研究 27 件、課題研究 34 件）の申請を受理した。

④選考委員会審査

- ・令和7年3月4日開催の第35回選考委員会において審査を行い、一般研究8件、課題研究9件の助成金交付対象者を選考した。

⑤理事会決定

- ・令和7年3月14日開催の第66回定時理事会において、選考委員会の選考結果に基づき審議を行い、17件（総額1,500万円）の研究助成金交付を決定した。

（交付対象者及び助成額は「別紙2」のとおり）

（2）シンポジウム開催等助成事業

1）令和6年度前期（令和6年4月～令和6年9月）

- ・令和6年度研究助成と並行して、令和6年度前期シンポジウム助成の公募、選考、助成決定を行い、令和6年4月、2件に助成金（総額70万円）を交付した。

（交付対象者及び助成額は「別紙3」のとおり）

2）令和6年度後期（令和6年10月～令和7年3月）

- ・令和6年度後期におけるシンポジウム開催等の助成対象者を募集するため、専門学会誌及び関係団体ホームページ並びに本財団ホームページに募集公告を掲載した。
- ・令和6年7月1日から同7月25日の間募集を行い、令和6年8月20日開催の第34回選考委員会で選考を行い、9月13日開催の第64回臨時理事会で助成対象者を決定し、同年10月、2件に助成金（総額43万円）を交付した。

（交付対象者及び助成額は「別紙3」のとおり）

3）令和7年度前期（令和7年4月～9月）

- ・令和7年度研究助成と並行して、令和7年度前期シンポジウム助成の募集公告、募集、助成対象の選考、助成決定を行い、2件（73.8万円）の助成を決定した。

（交付対象者及び助成額は「別紙4」のとおり）

（3）奨学助成事業

令和6年度及び7年度については、いずれも令和6年9月15日から同10月31日までの間、本財団ホームページに募集広告を掲載し公募を行ったが、両年度ともに応募申請はなかった。

2 情報提供事業（公3事業）

（1）ホームページによる情報提供 (<https://www.ffcr.or.jp/>)

- ・令和6年度に行われた、削除予定添加物名簿の公示、添加物使用基準の削除又は改正(4品目)、農薬等の食品中残留基準値の改正（農薬等の追加含め35品目）等の最新の行政施策をホームページに反映させるとともに、情報提供を一層充実させるため、掲載内容の更新等を継続して実施した。
- ・令和6年度のホームページへの年間総アクセス件数は263,627件であった。訪問者の国別では、日本190,130(72%)、米国20,062(7.6%)、中国11,682(4.4%)の順であった。また、画面表示回数は合計2,486,406であり、残留農薬基準値検索システム（日本語）1,219,579回、

トップページ(日本語)708,090 回、残留農薬基準値検索システム(英語) 328,299 の順であった。(いずれも順序は令和5年度と同じ)

- ・ホームページへの内容等に関する利用者からのメールでの照会(195件)に対し、メールにて回答を行った。
- ・ホームページの掲載情報の概要は「別紙5」のとおりである。

(2) 研究成果報告書の発刊

- ・令和5年度の研究助成対象者から提出された研究報告書を取りまとめた「日本食品化学研究振興財団第30回(令和5年度)研究成果報告書」を令和6年11月30日刊行し、当該研究者をはじめ、消費者庁、国立医薬品食品衛生研究所、国立国会図書館、各都道府県や政令市等の衛生研究所、関係団体等へ配付した。

3 調査研究事業(公2事業)

(1) 受託事業

- ・令和6年度は、受託はなかった。

III 管理運営業務

1 会議の開催

- ・理事会 5回(定時理事会2回、臨時理事会3回)
- ・評議員会 1回(定時評議員会1回)
- ・選考委員会 2回

2 令和6年度主要事業

令和6年度の主要事業については、「別紙6 令和6年度主要事業記録」のとおりである。

IV 組織

- ・令和6年7月18日理事会(臨時)で選考委員1名選任
- ・令和7年2月28日理事1名退任の登記変更
- ・令和6年度末における本財団の組織については、「別紙7」のとおりである。

V 附属明細書

- ・「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書については、記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

(以上)

令和6年度（第31回） 研究助成金交付対象者

1：一般研究

番号	交付対象者(敬称略)	研 究 課 題	助成額 (万円)
1	北海道大学 工学研究院 Li Feng	食品添加物を安全な触媒として用いた生分解性高分子材料の合成法開発	80
2	中部大学 応用生物学部 津田 孝範	食品添加物「乳酸」の新たな視点 ～乳酸の経口摂取、運動併用による認知機能向上作用の解明～	80
3	国立医薬品食品衛生研究所 食品部 志田 静夏	自動前処理装置を用いた食品中ピロリジジンアルカロイド類の高感度分析法の開発	100
4	京都大学大学院 農学研究科 松居 翔	母獣のD-tagatose摂取による子孫のエピジェネティクス変動の解明	80
5	松山大学 薬学部 天倉 吉章	食品添加物の品質評価における高分子量縮合型タンニン標準品調製に関する基礎検討	100
6	和歌山県立医科大学 薬学部 長野 一也	適切な健康影響評価系の構築を目指した、経口曝露後の銀ナノ粒子の存在様式変化を踏まえた体内動態解析	100
7	広島大学原爆放射線医科学研究所 疾患モデル解析研究分野 神沼 修	味覚用食品添加物による免疫調節機能	100
8	大阪大学大学院 理学研究科 船橋 靖博	ヒトの腸内で働く添加剤による抗酸化物質の酸化防止と栄養強化	80
9	農業・食品産業技術総合研究機構 基盤技術研究本部 高度分析研究センター 中川 博之	アワノメイガ幼虫糞からの <i>Fusarium</i> 属糸状菌の分離とマイコキシン汚染拡散機構の解明	80
10	国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部 辻 厳一郎	食品添加物の定量評価のためのシングルフアレンス化合物のデザイン研究	80

一般研究10件 880万円

2：課題研究

11	岡山県立大学 保健福祉学部 伊東 秀之	既存添加物収載タンニン（抽出物）の機能性代謝物の探索	120
12	京都大学大学院 農学研究科 真鍋 祐樹	哺乳動物体内におけるカロテノイド異性化反応の探求	120
13	北海道大学大学院 薬学研究院 佐藤 夕紀	ヒアルロン酸オリゴ糖の同時定量法による体内動態特性の解析と小腸免疫系への関与	120
14	東京大学大学院 農学生命科学研究科 永田 宏次	食品添加物（酸化防止剤）の没食子酸プロピルが細菌・酵母・ヒトの細胞に与える影響の解析	100
15	高知工業高等専門学校 ソーシャルデザイン工学科 秦 隆志	ファインバブルを用いた新規フレーバー成分抽出手法に関する研究	80

課題研究 5件 540万円

合 計 15件 1420万円

令和 7 年度（第 3 2 回） 研究助成金交付対象者

1：一般研究

番号	交付対象者(敬称略)	研 究 課 題	助成額 (万円)
1	長崎県環境保健研究センター 保健衛生研究部 辻村 和也	中毒事例における高リスクTTXsプロファイリング及び理化学分析のための標準試料作製検討	80
2	松山大学 薬学部 天倉 吉章	食品添加物の品質評価における高分子量縮合型タンニン標準品調製に関する基礎検討	100
3	国立医薬品食品衛生研究所 食品部 志田 静夏	自動前処理装置を用いた食品中ピロリジジナルカロイド類の高感度分析法の開発	100
4	和歌山県立医科大学 薬学部 長野 一也	適切な健康影響評価系の構築を目指した、経口曝露後の銀ナノ粒子の存在様式変化を踏まえた体内動態解析	100
5	国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 川末 慎葉	逆相HPLC-蛍光分析を可能とする高選択的誘導体化を利用した食品添加物中のアクリルアミド定量法	100
6	宇部工業高等専門学校 物質工学科 竹田 昂司	乾燥による乳酸菌の活性劣化を抑制する製剤調整手法の検討	70
7	国立医薬品食品衛生研究所 病理部 石井 雄二	食品添加物二炭酸ジメチルから生じるカルバミン酸メチルのラット肝発がん機序に関する研究	110
8	東洋大学 食環境科学部 西崎 雄三	NMRを用いたムラサキニンジン由来アントシアニンのデジタル化と定量分析	90

一般研究 8件 750万円

2：課題研究

9	京都大学大学院 生命科学研究所 神戸 大朋	ポリリン酸の分解に関わる酵素の同定と亜鉛栄養状態との関連性	70
10	京都大学大学院 農学研究科 真鍋 祐樹	哺乳動物体内におけるカロテノイド異性化反応の探求	90
11	近畿大学 農学部 田中 照佳	バニラ (<i>Vanilla planifolia</i>) 抽出物の骨粗鬆症予防効果とその作用機構の解明	60
12	北海道大学大学院 薬学研究院 佐藤 夕紀	ヒアルロン酸オリゴ糖の同時定量法による体内動態特性の解析と腸管免疫系への関与	120
13	東京大学大学院 薬学系研究科 牛丸 理一郎	スギ由来香気成分ノルリグナンの生合成解析を基盤とした類縁体創出と物性評価	60
14	京都光華女子大学 健康科学部 中木 直子	月経周期や閉経に伴う甘味感受性および嗜好性の変化がもたらす摂食への影響—スクロースとは異なるスクラロースの摂食調節作用の検討—	80
15	東京電機大学 理工学部 武政 誠	食感ビッグデータを活用した大規模言語モデルによる食感と言語の相互変換法開発	80
16	星薬科大学 薬品分析化学研究室 伊藤 里恵	代替タンパク質中のアレルゲン網羅的定量法の開発	80
17	早稲田大学 理工学術院 野崎 千尋	食用コオロギは本当に「健康的」か〜コオロギ摂食マウスにおける性特異的な体重増加の機序解明	110

課題研究 9件 750万円

合 計 17件 1500万円

令和 6 年度シンポジウム開催等助成金交付対象者

番号	主催者及び申請者（敬称略）	シンポジウム等の名称・テーマ	助成額 (万円)
1	日本食品化学学会 国立医薬品食品衛生研究所 食品添加物部 部長 杉本 直樹	日本食品化学学会 第30回総会・学術大会	50
2	岐阜薬科大学 講師 立松 憲次郎	日本脂質栄養学会 第33回大会	20

合 計 70万円

(後期)

3	日本食品化学学会 日本大学生物資源科学部 食品生命学科食品分析学研究室 准教授 大槻 崇	第40回食品化学シンポジウム 食品及び食品添加物に関わる最近の話題について ～プラントベースフード・培養肉、ナノマテリアル～	28
4	食品ハイドロコロイド研究会 東京電機大学理工学部 教授 半田 明弘	第35回食品ハイドロコロイドシンポジウム・セミナー2024	15

合 計 43万円
年度合計 113万円

令和7年度シンポジウム開催等助成金交付対象者

(前期)

番号	主催者及び申請者(敬称略)	シンポジウム等の名称・テーマ	助成額 (万円)
1	日本食品衛生学会 実行委員長 笹本 剛生	令和7年度 日本食品衛生学会 公開シンポジウム テーマ; 「機能性表示食品の安全性とリスク」	23.8
2	日本食品化学学会 立命館大学 薬学部 教授 井之上 浩一	日本食品化学学会 第31回総会・学術大会	50

合 計 73.8万円

日本食品化学研究振興財団ホームページ (<https://www.ffcr.or.jp/>) 主なコンテンツ

(1) 食品添加物 関係情報

①リスト類

指定添加物リスト[日・英]、既存添加物リスト[日・英]、天然香料基原物質リスト[日・英]、食品添加物使用基準[日・英] 等

②指定添加物・既存添加物の検索

添加物一覧表 (Excel 版)

③食品添加物の規格基準

食品添加物公定書[日 (第 10 版)・英(第 9 版)] (消費者庁、国立衛研へリンク)

④新食品添加物の指定

指定及び使用基準改正に関する指針、食品添加物の指定等要請資料作成の手引き 等

⑤食品添加物の安全性

JECFA による安全性評価、既存添加物の安全性評価[日・英]、食品添加物一日摂取量調査 等 (厚労省、国立衛研、JECFA へリンク)

⑥食品添加物の表示 (消費者庁へリンク)

(2) 残留農薬 関係情報

①残留農薬ポジティブリスト制度

- ・ポジティブリスト制度について[日・英] (消費者庁へリンク)
- ・残留農薬基準値検索システム <食品名、農薬名から検索可能> [日・英]
- ・対象外物質一覧[日・英]、抗生物質・合成抗菌剤等 等

②食品中の残留農薬検査結果、畜産食品の残留物質モニタリング検査結果

(3) 研究助成成果報告

第 5 回 (平成 11 年度) 助成分以降の全ての助成課題の和文抄録

第 8 回 (平成 14 年度) 助成分以降の全ての助成課題の英文抄録

(4) 消費者庁／厚生労働省食品化学情報

食品化学に関する主要行政通知を掲載 (昭和 43 年以降)

(5) 食品安全委員会情報

食品添加物評価書一覧等 (食品安全委員会へリンク)

(6) 関連サイト

国内外の多数のサイトとリンク

令和6年度主要事業記録

年 月 日	主 要 事 業 記 録
令和6年4月22日	第62回定時理事会（於：三栄源エフ・エフ・アイ(株)本社）＜ウェブ出席あり＞ ・ 令和5年度事業報告及び決算報告の承認に関する件 ・ 代表理事職務執行状況の報告 他
令和6年5月27日	第31回研究助成金贈呈式（於：リーガロイヤルホテル）
令和6年5月28日	第17回定時評議員会（於：三栄源エフ・エフ・アイ(株)本社）＜ウェブ出席あり＞ ・ 令和5年度事業報告及び決算報告の承認に関する件 他
令和6年7月1日	令和6年度（後期）シンポジウム開催等助成申請の受付開始（7月25日まで）
令和6年7月18日	第63回臨時理事会（書面表決） ・ 選考委員の選任に関する件
令和6年8月20日	第34回選考委員会（書面表決） ・ 令和6年度（後期）シンポジウム開催等助成金交付対象者の選考に関する件
令和6年9月11日	第64回臨時理事会（書面表決） ・ 令和6年度（後期）シンポジウム開催等助成金交付対象者の決定に関する件
令和6年9月15日	令和7年度奨学助成申請の受付開始（10月31日まで）
令和6年11月15日	令和7年度研究助成及び前期シンポジウム開催等助成申請の受付開始 （令和7年1月15日まで）
令和6年11月30日	研究成果報告書（第30回・令和5年度）刊行
令和6年12月11日	第65回臨時理事会（書面表決） ・ 事務局長の任免に関する件
令和7年3月4日	第35回選考委員会（於：三栄源エフ・エフ・アイ(株)本社）＜ウェブ出席あり＞ ・ 令和7年度研究助成金交付対象者及び令和7年度（前期）シンポジウム開催等 助成金交付対象者の選考に関する件 他
令和6年3月11日	第66回定時理事会（於：三栄源エフ・エフ・アイ(株)本社）＜ウェブ出席あり＞ ・ 令和7年度事業計画及び収支予算の承認に関する件 ・ 令和7年度役員報酬に関する件 ・ 令和7年度助成金交付対象者（研究助成及び前期シンポジウム開催等）決定 に関する件 ・ 旅費規程の改正に関する件 ・ 代表理事職務執行状況の報告 他

組 織

令和7年3月31日現在

1 役 員		
理 事 長	清水 康弘	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 代表取締役社長
専務理事	伏見 環	公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
理 事	穂山 浩	星薬科大学 薬学部創薬科学科 学科長・教授
〃	神崎 浩	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域(農学系) 教授(特任)
〃	清水 玲子	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 取締役
〃	堤 康央	大阪大学大学院 薬学研究科 教授
〃	中垣 俊郎	一般財団法人 医薬品医療機器イノベーション財団 理事長
〃	鍋谷 浩志	東京家政大学 栄養学部栄養学科 学科長・教授
〃	西川 淳一	武庫川女子大学 薬学部 教授
〃	松村 康生	京都大学生存圏研究所 生存圏開発創成研究系 特任教授
監 事	尾川 雅清	シリウス法律事務所 弁護士
〃	妙中 茂樹	妙中公認会計士事務所 公認会計士
2 評 議 員	辻川 和丈	大阪大学大学院 薬学研究科 教授
〃	中江 大	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 教授
〃	成田 昌稔	公益社団法人 東京医薬品工業協会 理事長
〃	西野 雅之	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 取締役執行役員
〃	松浦 壽喜	武庫川女子大学 食物栄養科学部 教授
〃	松藤 寛	日本大学 生物資源科学部 教授
〃	森本 隆司	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 検査部 部長
3 選考委員	伊藤 美千穂	国立医薬品食品衛生研究所 生薬部 部長
〃	梅村 隆志	ヤマザキ動物看護大学大学院 動物看護学研究科 教授
〃	小関 良宏	東京農工大学 名誉教授
〃	紀平 哲也	消費者庁 食品衛生基準審査課長
〃	合田 幸広	国立医薬品食品衛生研究所 名誉所長
〃	高野 伊知郎	明治薬科大学 薬学部 特任教授
〃	谷 史人	京都大学大学院 農学研究科 教授
〃	堤 康央	大阪大学大学院 薬学研究科 教授
〃	船見 孝博	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 取締役執行役員
〃	鰐渕 英機	大阪公立大学大学院 医学研究科環境リスク評価学 特任教授
4 事 務 局	牧角 一信	事務局長
〃	中村 明淑	
〃	西川 洋美	
同東京分室	鵜狩 真理子	